



別府市の詩人、山脇益美さん（30）が初の詩集「朝見に行くよ」を出版しました。

朝見の暮らしを詩に

【別府】別府市の詩人、山脇益美さん（30）が初の詩集「朝見に行くよ」（B6判、73頁）を出版した。京都府出身で別府を初めて訪れてからこれまでの約8年を、さまざまな風景に心を寄せながら紡いだ。

京都造形芸術大（当時）に興味を持ち、運営を手伝った。戦災を免れた古い町並みや観光地として栄えた腰を入れ始めた。



「朝見に行くよ」を出版した山脇益美さん＝別府市

① 京都府出身の山脇さんが別府に移り住んだのはどうしてでしょう？

2012年、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」に興味を持ち、スタッフとして別府に滞在。戦災を免れた古い町並みや観光地として栄えた町の歴史に魅力を感じ、翌年、移り住んだ。

② 山脇さんが朝見地区に心を引かれる理由は何ですか？

のんびりとしていて、古い木造建築から漂う暮らしの営みが心地よく感じられるから。

別府に移住 山脇さんが詩集

日常の風景に心寄せ

市内で最も心引かれる町が市南部に位置する八幡朝見神社や朝見川がある朝見地区。のんびりとしていて、古い木造建築から漂う暮らしの営みが心地よく感じられる場所という。タイトルには「朝を見に行く」と「朝見」という場所に行くの二つの意味を込めた。詩は20編。心のよりどころという川と朝見をテーマに、日常の出来事から生まれた感情を細やかに表現した。

別府に移ってから詩の創作だけでなく、朗読などのワークショップも開催。2015年の「混浴温泉世界」では路地裏などを紹介する案内人を務めた。「詩集の出版は別府に来てから目標にしてきた。映像や小説などさまざまな表現にも挑戦したい」と話している。税抜き2千円。問い合わせはメール（zakkeisno ten@gmail.com）へ。（佐藤弘子）

③ 山脇さんが詩集「朝見に行くよ」で表現したのはどんなことでしょうか？

心のよりどころという川と朝見をテーマに、日常の出来事から生まれた感情を細やかに表現した。

④ 詩集の出版や今後の活動について、山脇さんは何と話していますか？

「詩集の出版は別府に来てから目標にしてきた。映像や小説などさまざまな表現にも挑戦したい」